

English translation of Abstract of JP-3089684-U, published
October 31, 2002

Cap for canned drink

The object of the present invention is to provide a cap 10 for a canned drink that is mounted with a stay-on tab 18 lifted up and that does not let the drink flow out of the cap 10.

In a cap 10 to cover a canned drink, a can cover 22 including a stay-on tab 18 and a score 20 is twisted onto the upper end of a roughly cylindrical main can unit 16. A twist-on flange 24 is formed on the outer perimeter edge of the upper end of the main can unit 16. A ceiling 12 covers the entire can cover 22. A side wall 14 is fitted and engages with the outer perimeter of the twist-on flange 24. A space 44 is formed between the inner surface of the ceiling 12 and the can cover 22 to allow space for the stay-on tab, which is lifted up higher than the upper end of the twist-on flange 24. Also, the side wall 14 is elastically coupled with the outer perimeter of the twist-on flange 24 and the lower end of a cylindrical ring-shaped projection disposed on the inner surface of the ceiling 12 and oriented toward the can cover 22 is elastically coupled with the surface of the can cover 22, thus forming a water-tight structure between the cap 10 and the canned drink.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3089684号
(U3089684)

(45) 発行日 平成14年10月31日 (2002. 10. 31)

(24) 登録日 平成14年8月14日 (2002. 8. 14)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 5 D 51/08
43/06

識別記号

F I

B 6 5 D 51/08
43/06

評価書の請求 未請求 請求項の数10 OL (全 12 頁)

(21) 出願番号 実願2002-2515(U2002-2515)

(22) 出願日 平成14年5月1日 (2002. 5. 1)

(73) 実用新案権者 597097401

有限会社ティケイ企画
東京都豊島区池袋2丁目18番2号

(72) 考案者 岸田 隼人

埼玉県鶴ヶ島市大字上広谷594-14

(72) 考案者 渡辺 布由樹

神奈川県横浜市金沢区並木3-3-6-102

(74) 代理人 100089129

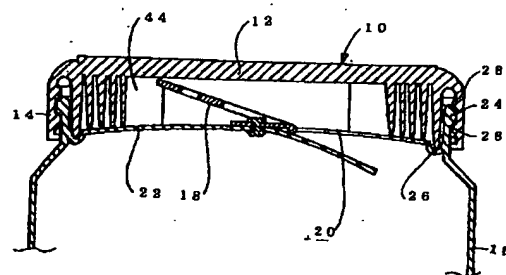
弁理士 森山 哲夫

(54) 【考案の名称】 飲料缶のキャップ

(57) 【要約】

【課題】ステイオンタブ18が引き起こされたままで被せられ、また飲料がキャップ10外に流出しない飲料缶のキャップ10を提供する。

【解決手段】略円筒状の缶本体16の上端部に、ステイオンタブ18およびスコア20を有する缶蓋22を巻き締め固定し、缶本体16の上端部外周縁に巻き締めフランジ24を形成した飲料缶に被せるキャップ10であって、缶蓋22の全体を覆う天板部12と巻き締めフランジ24の外周に嵌合係合する側壁部14とを有する。被せた状態で、天板部12の内面と缶蓋22の間に、巻き締めフランジ24の上端よりも高く引き起こされたステイオンタブ18を許容する空間部44を形成する。また、側壁部14が巻き締めフランジ24外周に弾接し、また天板部12の内面に缶蓋22に向けて設けた略円筒状の環状凸部の下端部が缶蓋22の表面に弾接し、キャップ10と飲料缶の間に水密構造を構成する。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 略円筒状の缶本体の上端部に、ステイオンタブおよびスコアを有する缶蓋を巻き締め固定し、前記缶本体の上端部外周縁に巻き締めフランジを形成した飲料缶に被せるキャップであり、このキャップは、前記缶蓋の全体を覆う天板部と前記巻き締めフランジの外周に嵌合係合する側壁部とを有し、しかも被せた状態で、前記天板部の内面と前記缶蓋の間に、前記巻き締めフランジの上端よりも高く引き起こされた前記ステイオンタブを許容する空間部を形成するように構成したことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【請求項2】 請求項1記載の飲料缶のキャップにおいて、前記天板部の内面に前記缶蓋に向けて略円筒状の環状凸部を設け、その下端部が前記缶蓋の外周部に設けられた凹状溝に挿入当接するように構成したことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【請求項3】 請求項1記載の飲料缶のキャップにおいて、前記天板部の内面に前記缶蓋に向けて略円筒状の環状凸部を設け、その下端部が前記缶蓋の表面に当接するように構成したことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【請求項4】 請求項3記載の飲料缶のキャップにおいて、前記略円筒状の環状凸部を同心円状に複数設け、その下端部が前記缶蓋の表面にそれぞれに当接するように前記缶蓋の形状に応じて下端部までの長さをそれぞれ設定して構成したことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【請求項5】 請求項3記載の飲料缶のキャップにおいて、前記略円筒状の環状凸部の下端部に同心円状の鬚状の凹凸を設け、この鬚状の凹凸の下端部が前記缶蓋の表面にそれぞれ当接するように構成したことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【請求項6】 請求項1記載の飲料缶のキャップにおいて、前記缶蓋のステイオンタブおよびスコアを囲むように、前記天板部の内面に前記缶蓋に向けてしかもその下端部が前記缶蓋の表面に当接するように環状凸部を設けて構成したことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【請求項7】 請求項6記載の飲料缶のキャップにおいて、前記環状凸部が、前記缶蓋のステイオンタブおよびスコアの近くの位置で前記缶蓋の表面に当接するように構成したことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【請求項8】 請求項1記載の飲料缶のキャップにおいて、前記キャップの天板部の表面に、広告などを印刷しまたはシールを貼設して構成したことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【請求項9】 請求項1記載の飲料缶のキャップにおいて、前記キャップの天板部の表面に浅い凹部を形成し、この凹部にプレート貼設しまたは嵌合固定して構成し

たことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【請求項10】 請求項1記載の飲料缶のキャップにおいて、前記キャップを弾性を有する樹脂で成形して構成したことを特徴とする飲料缶のキャップ。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の飲料缶のキャップの第1実施例の平面図である。

【図2】 図1のA-A断面矢視拡大図である。

【図3】 図1のB-B断面矢視拡大図である。

【図4】 図1の拡大底面図である。

【図5】 飲料缶にキャップを被せた状態の拡大縦断面図である。

【図6】 飲料缶にキャップを被せた状態の平面図である。

【図7】 本考案のキャップの第2実施例の要部縦断面図である。

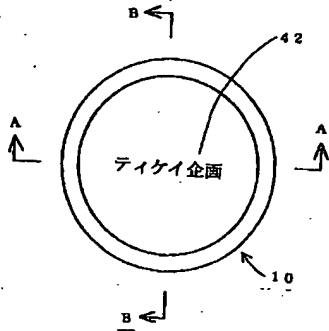
【図8】 本考案のキャップの第3実施例を飲料缶に被せた状態の縦断面図である。

【図9】 異なる広告内容に対してもキャップを共用するための一例を示す図であり、(a)は平面図であり、(b)は正面図である。

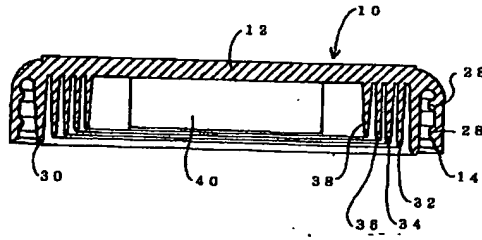
【符号の説明】

- 10 キャップ
- 12 天板部
- 14 側壁部
- 16 缶本体
- 18 ステイオンタブ
- 20 スコア
- 22 蓋缶
- 24 巻き締めフランジ
- 26 凹状溝
- 28 突部
- 30 第1の環状凸部
- 32 第2の環状凸部
- 34 第3の環状凸部
- 36 第4の環状凸部
- 38 第5の環状凸部
- 40 リブ
- 42 広告
- 44 空間部
- 50、52 環状凸部
- 50a 鬚状の凹凸
- 54 浅い凹部
- 56 プレート
- 58 シール

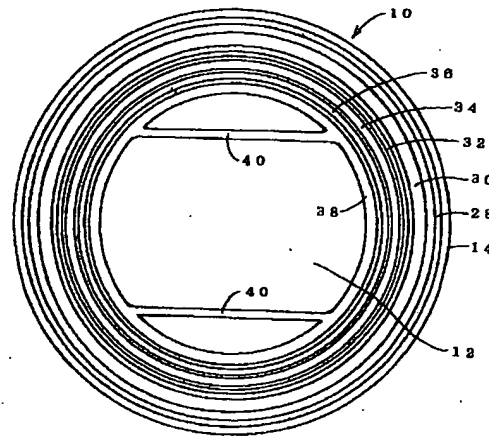
【図1】



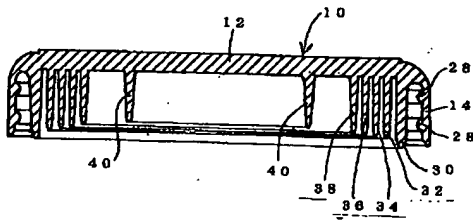
【図2】



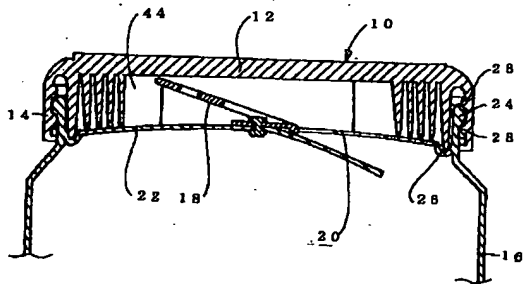
【図4】



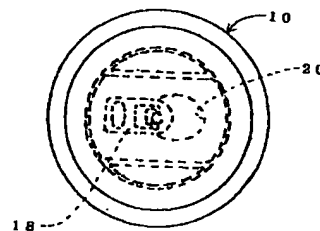
【図3】



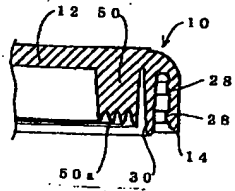
【図5】



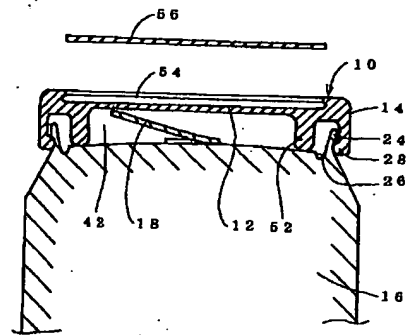
【図6】



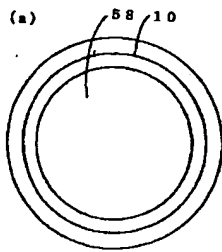
【図7】



【図8】



【図9】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は、ステイオンタブおよびスコアを有する缶蓋を備えた飲料缶のキャップに係わり、特にステイオンタブを引き起こしてスコアを開口した状態で被せることのできる飲料缶のキャップに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

飲料缶に被せるキャップの技術が、特開2000-62819公報に示されている。この技術は、飲料缶の外周に装着されたストップバンドにキャップの一侧部を支点により揺動自在に配設し、キャップが飲料缶に被せられた閉状態と、キャップが飲料缶から外された開状態とに、任意に選択できるように構成したものである。

【0003】

飲料缶の飲み口をキャップで覆うことができ、塵埃等の付着を防ぐことができ、衛生的である。

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

上記公報に示される技術にあつては、飲料缶にストップバンドを配設する必要があるが、現在大量に普及している飲料缶に対応することができない。また、キャップは飲料缶の巻き締めフランジの上端に天板部の内面が当接して被せられて閉状態となり、しかも天板部は平面状に形成されている。そこで、スコアを開口すべくステイオンタブを引き起こして、ステイオンタブの遊端部が巻き締めフランジの上端より高い位置にあると、キャップを適正に閉状態とすることができない。さらに、キャップは、巻き締めフランジの外周に軽く嵌合されて閉状態が維持されるものであり、飲料缶が不注意により傾けられまたは転倒された際に、飲料缶の内部の飲料がスコアからキャップ内に流出する可能性があるが、キャップ内の飲料が外部に流出するのを防止する対策が積極的には何ら設けられていない。

【0005】

本考案は、上述のごとき従来技術の事情に鑑みてなされたもので、現在大量に普及しているステイオンタブおよびスコアを有する缶蓋の飲料缶に対応でき、しかもステイオンタブが引き起こされたままで被せることのできる飲料缶のキャップを提供することを目的とする。また、飲料缶からキャップ内に流出した飲料が、キャップ外に流出しないようにした飲料缶のキャップを提供することを目的とする。さらに、キャップ内に流出する飲料の量を少なくできるようにした飲料缶のキャップを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

かかる目的を達成するために本考案の飲料缶のキャップは、略円筒状の缶本体の上端部に、ステイオンタブおよびスコアを有する缶蓋を巻き締め固定し、前記缶本体の上端部外周縁に巻き締めフランジを形成した飲料缶に被せるキャップであり、このキャップは、前記缶蓋の全体を覆う天板部と前記巻き締めフランジの外周に嵌合係合する側壁部とを有し、しかも被せた状態で、前記天板部の内面と前記缶蓋の間に、前記巻き締めフランジの上端よりも高く引き起こされた前記ステイオンタブを許容する空間部を形成するように構成されている。

【0007】

そして、前記天板部の内面に前記缶蓋に向けて略円筒状の環状凸部を設け、その下端部が前記缶蓋の外周部に設けられた凹状溝に挿入当接するように構成しても良い。

【0008】

また、前記天板部の内面に前記缶蓋に向けて略円筒状の環状凸部を設け、その下端部が前記缶蓋の表面に当接するように構成することもできる。

【0009】

さらに、前記略円筒状の環状凸部を同心円状に複数設け、その下端部が前記缶蓋の表面にそれぞれに当接するように前記缶蓋の形状に応じて下端部までの長さをそれぞれ設定して構成することも可能である。

【0010】

そしてまた、前記缶蓋のステイオンタブおよびスコアを囲むように、前記天板

部の内面に前記缶蓋に向けてしかもその下端部が前記缶蓋の表面に当接するように環状凸部を設けて構成しても良い。

【考案の実施の形態】

【0011】

以下、本考案の第1実施例を図1ないし図6を参照して説明する。図1は、本考案の飲料缶のキャップの第1実施例の平面図である。図2は、図1のA-A断面矢視拡大図である。図3は、図1のB-B断面矢視拡大図である。図4は、図1の拡大底面図である。図5は、飲料缶にキャップを被せた状態の拡大縦断面図である。図6は、飲料缶にキャップを被せた状態の平面図である。

【0012】

図において、キャップ10は、飲料缶に被せられるように、略平面円板状の天板部12とその縁部に配設される略円筒状の側壁部14とからなる。そして、キャップ10は、弾性変形により飲料缶に着脱できることが望ましく、弾性を有する樹脂で成形されるのが最適である。

【0013】

ところで、一般的に飲料缶は、略円筒状の缶本体16の上端部に、ステーションタブ18とスコア20を有する缶蓋22が巻き締め固定され、缶本体16の上端部外周縁に巻き締めフランジ24が形成されている。また、缶蓋22の外周部には巻き締め固定され部分の内側に沿って凹状溝26が設けられる。さらに、缶蓋22は中央が僅かに高い曲面で形成されることが多い。

【0014】

そこで、キャップ10の側壁部14の内周面に周状の2つの突部28、28が形成され、飲料缶にキャップ10が被せられると、巻き締めフランジ24の外周に側壁部14の内周面が嵌合弾接し、しかも2つの突部28、28が巻き締めフランジ24の上下端に係合するように構成される。そして、側壁部14の突部28、28が巻き締めフランジ24の上下端に係合する状態において、天板部12の内面は巻き締めフランジ24の上端よりも高く位置するように形成される。

【0015】

また、天板部12の内面より缶蓋22の外周部の凹状溝26に向けて、略円筒

状の第1の環状凸部30が設けられ、その下端部が凹状溝26に挿入当接するように構成される。ここで、側壁部14の突部28、28が巻き締めフランジ24の上下端に係合する状態で、第1の環状凸部30の下端部が凹状溝26の底に弾接することが望ましい。

【0016】

さらに、天板部12の内面には、缶蓋22の表面に向けて同心円状に複数の第2～5の環状凸部32、34、36、38が設けられ、その下端部がそれぞれ缶蓋22の表面に弾接するように形成される。なお、缶蓋22の表面の曲面に対応して、第2～5の環状凸部32、34、36、38の長さは、それぞれ適宜に設定される。しかも、最も中心に近い第5の環状凸部38は、缶蓋22に設けられたステイオンタブ18とスコア20を囲むようにして缶蓋22の表面に弾接することが望ましい。さらに、この最も中心に近い第5の環状凸部38には、ステイオンタブ18とスコア20の両側近くの位置で缶蓋22の表面にその下端部が弾接するリップ40、40が一体に設けられる。

【0017】

かかる形状のキャップ10は、樹脂成形により構成されるのが、安価に量産するのに好適である。そして、キャップ10の天板部12の表面には、適宜に広告42などを印刷しても良い。また、広告42を、印刷に代えて表面に形成した凹凸により文字などを示して、キャップ10と一体に成形しても良い。さらに、天板部12の表面に、人物や動物などのフィギュアを一体的に成形することも可能である。

【0018】

かかる構成のキャップ10は、以下のごとき作用を奏する。まず、ステイオンタブ18を引き起こしてスコア20を開口させて、飲料が飲める状態とした飲料缶にあっては、ステイオンタブ18を引き上げる遊端側が巻き締めフランジ24の上端よりも高くまで引き上げられた状態であることが多い。しかるに、本考案のキャップ10では、飲料缶に被せて、側壁部14の突部28、28が巻き締めフランジ24の上下端に係合する状態で、天板部12の内面が巻き締めフランジ24の上端より高い位置にあり、引き起こされたステイオンタブ18を許容しえ

る空間部44が形成されている。この結果、ステイオンタブ18が引き起こされたままで、キャップ10を飲料缶に適正に被せることができる。もって、スコア20が開口された飲料缶の飲み口を、ステイオンタブ18が引き起こされたままで、塵埃などから衛生的に保護することができる。

【0019】

また、飲料缶にキャップ10が被せられて係合した状態で、第1の環状凸部30の下端部が缶蓋22の凹状溝26に弾接し、また第2～5の環状凸部32, 34, 36, 38が缶蓋22の表面にそれぞれ弾接するので、それぞれの弾接部で水密構造が構成されており、不注意などにより飲料缶を傾けまたは転倒させても、スコア20から流出する飲料はキャップ10内に溜まり、キャップ10外に流出することがない。そして、第5の環状凸部38およびこれと一体的なリブ40, 40により、ステイオンタブ18とスコア20を囲んだ小さな容量の室が形成されるので、キャップ10内に流出する飲料の量を少なくすることができる。さらに、第5の環状凸部38およびリブ40, 40で形成される室に流出した飲料は、飲料缶が正常な姿勢に戻されれば、大部分はスコア20を介して飲料缶内に戻り、キャップ10を外したときに、飲料が周囲に零れるようなことがない。

【0020】

なお、本考案の第1実施例では、キャップ10の側壁部14の内周面の2つの突部28, 28が巻き締めフランジ24の上下端に係合することで、飲料缶とこれに被せたキャップ10の相対的位置が一義的に決定される。そして、突部28, 28が巻き締めフランジ24の上下端に弾性的に係合することで、飲料缶とキャップ10の水密構造が形成される。そこで、第1～第5の環状凸部30, 32, 34, 36, 38は必ずしも無くても良い。しかるに、第1の環状凸部30を設けることで、飲料缶にキャップ10を被せたときの相対的位置がより一義的に決定されるとともに飲料缶とキャップ10の水密構造もより確実なものとなっている。さらに、第2～5の環状凸部32, 34, 36, 38を設けることで、より水密構造を確実なものとしており、その数は適宜に設定すれば良く、また存在しなくても良い。

【0021】

次に、本考案の第2実施例を図7を参照して説明する。図7は、本考案のキャップの第2実施例の要部縦断面図である。図7において、図1ないし図6に示す部材と同じまたは均等な部材には同じ符号を付けて重複する説明を省略する。

【0022】

第2実施例のキャップ10にあつては、天板部12の内面より、缶蓋22の表面に向けて幅の広い環状凸部50が設けられ、その下端面に同心円状の襞状の凹凸50aが設けられ、それぞれの襞状の凹凸50aの下端部が缶蓋22の表面に弾接するように構成される。この襞状の凹凸50aにより、第1実施例の第2～5の環状凸部32, 34, 36, 38と同様の水密構造を得ることができる。

【0023】

さらに、本考案の第3実施例を図8を参照して説明する。図8は、本考案のキャップの第3実施例を飲料缶に被せた状態の縦断面図である。図8において、図1ないし図6に示す部材と同じまたは均等な部材には同じ符号を付けて重複する説明を省略する。

【0024】

図8に示す第3実施例にあつては、キャップ10の側壁部14の内周面の下端に1つの突部28が設けられ、飲料缶にキャップ10を被せると、側壁部14の弾性変形により突部28が巻き締めフランジ24の下端に弾性係合するように構成される。また、天板部12の内面よりその下端が缶蓋22の表面に向けて環状凸部52が設けられ、その下端部が缶蓋22の表面に弾接されるよう構成される。なお、突部28が巻き締めフランジ24の下端に係合すると、環状凸部52が蓋缶22の表面に弾接することにより、飲料缶に対してキャップ10の相対的位置が決定される。

【0025】

さらに、第3実施例では、キャップ10の天板部12の表面に、浅い凹部54が形成され、しかもこの凹部54の周縁がアリ溝状とされ、この凹部54にプレート56が嵌め込まれる。このプレート56には適宜に広告などが印刷などにより表記される。

【0026】

この第3実施例にあつては、突部28と環状凸部52により飲料缶とキャップ10の水密構造が構成される。なお、環状凸部52の下端部は、第2実施例のごとく襷状の凹凸としても良い。そして、広告の内容に応じて適宜に異なるプレート56を嵌め込むことで、異なる広告内容に対してもキャップ10を共用することができる。

【0027】

そしてまた、異なる広告内容に対してもキャップ10を共用するためには、図9に示すごとく、第1実施例に示したキャップ10の天板部12の表面に、適宜な広告などが印刷されたシール58を貼設するようにしても良い。

【0028】

なお、上記実施例では、キャップ10の天板部12が平面上であるが、これに限られるものでなく、缶蓋22の表面と天板部12の内面の間に、引き起こしたステイオンタブ18を許容する空間部42が形成される形状であれば良く、ステイオンタブ18に臨んで天板部12の内面が上方凸なる形状に形成されても良く、またキャップ10内に流出し得る飲料の量が多くなるものの、天板部12全体が上方凸なる半円球であっても良い。さらに、上記実施例では、弾性を有する樹脂でキャップ10が成形されているが、これに限られず、側壁部14が巻き締めフランジ24に適宜に弾性変形して係合し、しかも飲料缶とキャップ10の間が適宜に水密構造が形成できれば良い。例えば、キャップを金属板で形成し、側壁部に適宜なスリットを設けて巻き締めフランジ24に弾性変形により係合し得るようにし、キャップの天板部の内面に、缶蓋22の表面に弾接する環状凸部を設けまたは巻き締めフランジ24の上端に弾接する適宜なパッキング部材を設けたものであっても良い。

【0029】

【考案の効果】

以上説明したように本考案の飲料缶のキャップは構成されているので、以下のごとき格別な効果を奏する。

【0030】

請求項1記載の飲料缶のキャップは、ステイオンタブを巻き締めフランジの上

端より高く引き起こしたままで、飲料缶にキャップを適宜に被せることができる。もって、塵埃等から飲み口を保護することができる。しかも、巻き締めフランジの外周にキャップの側壁部を水密構造で嵌合係合させるならば、飲料缶を傾けまたは転倒させても飲料がキャップ外に零れることがない。

【0031】

請求項2または3記載の飲料缶のキャップにあつては、環状凸部により、キャップと飲料缶の間がより確実な水密構造に構成さ、キャップ外に飲料が零れることがない。

【0032】

請求項4または5記載の飲料缶のキャップにあつては、環状凸部の缶蓋の表面に当接する下端部を幾重にも形成することで、キャップと飲料缶の間に構成する水密構造がより確実なものとなる。

【0033】

請求項6記載の飲料缶のキャップにあつては、環状凸部によりステイオンタブとスコアを囲む室が形成されるので、飲料缶からキャップ外に流出しない。しかも、キャップ内に流出した飲料は、飲料缶が適宜な姿勢となればスコアを介して缶内に戻る。

【0034】

請求項7記載の飲料缶のキャップにあつては、環状凸部によりステイオンタブとスコアを囲む小さな容量の室が形成され、飲料缶からキャップ内に流出する飲料の量を少なくすることができる。

【0035】

請求項8または9記載の飲料缶のキャップにあつては、キャップの天板部の表に、広告等を簡単に配設することができる。

【0036】

請求項10記載の飲料缶のキャップにあつては、弾性を有する樹脂成形により製造されるので、弾性変形により容易に飲料缶に嵌合係合するキャップを、金型を用いて安価に量産するのに好適である。